



『道-わが道を往く-』に掲載された記事の紹介 山内保憲

イエズス会会員やその協力者が様々なテーマについて執筆し、定期的にイエズス会日本管区が発行しているシリーズ本がある。その最新号、越前喜六編著『道-わが道を往く-』（教友社、2020）に、拙稿の「外国につながる子ども」たちを支えるために「日本型クリストレイ・スクールの可能性を求めて」が掲載されたことをご紹介したい。

本稿の中で、「外国につながる子ども」たちへの教育支援の必要性と限界、課題についてまとめさせていただいた。公立学校や学習支援教室での教育支援、公立の夜間中学校の取り組みなどを紹介しつつ、その限界や矛盾について分析している。これらは、AIA と関わる中で気付いたことを元にまとめさせていただいた。

また、これからの教育支援を考えるために、アメリカで急速に事業が拡大している「クリストレイ・スクール」についても紹介させていただいている。「クリストレイ・スクール」そのものは、教育システムや社会状況の違いのため、日本へそのまま導入することは難しい。しかし、ユニークな教育事業へと発展してきたプロセスを知ることで、日本に適応した新しい教育支援の可能性のヒントを考察している。

例えば、「クリストレイ・スクール」の創立者たちは、「学校」を設立することを初めから考えていたわけではなかった。シカゴのヒスパニック系移民が集住する地域住民が抱える問題を聞き取る中で、彼らのニーズにあった「教育」の必要性が見えてきたのである。さらに言えば、次に、学費をどのように捻出するかを考える中で、イエズス会学校の卒業生らの理解を得て「ワーク・プログラム」が始まった。やがて「ワーク・プログラム」に協力する企業とも共に対話していく中で、革新的な教育プログラムを次々に見出していったのである。つまり、同じ方向に向かっていく人々と「協働」し、徹底的に「会話」をおこない、共に神の望みを「識別」していくプロセスが、ユニークな「クリストレイ・スクール」に繋がったのである。このことが、日本における「外国につながる子ども」たちへの教育支援にも重要ではないか、という提案をさせていただいている。

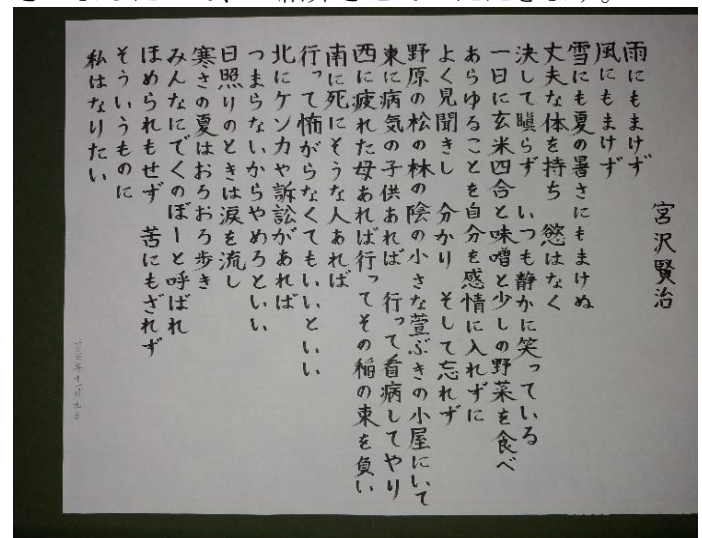
AIAに関わっていただいている皆様は、AIAで学んでいる子どもたちがどのような状況に置かれており、またどのような問題を抱えているか、よくご存知である。彼ら、彼女たちを支援していくた

めには、どう考えても、日本にも彼らの学びのために特化された学校が必要である。しかし、アメリカと比べて移住者の総数の規模の違い、移住地域が散在していることなどを考えると簡単に学校を設立することは難しい。ニーズを読み取り、さまざまな立場の人々と協働し、知恵を出し合っていく中で、日本の状況にあったサポートの形が見つかるのではないかと考えている。奇しくも、今回のシリーズのテーマは「道」である。私たちが目指している「道」には地図もなく、障害物も多いように感じる。しかし、私たちが共に歩いていく中で、思いもよらないアイデアにつながっていくという希望を持っている。拙稿が、このような歩みのきっかけ作りに寄与できれば幸いである。

☆学習者さんの作品紹介☆

東京都の緊急事態宣言を受け、AIAでは引き続きオンラインを活用した授業等の取り組みをすすめております。まだまだスタッフも試行錯誤しながらのオンライン授業ではありますが、学習者の皆さまは日々一生懸命勉強に励んでいらっしゃいます。

今回は、学習者さんが素敵な作品をつくってくださいましたので、ご紹介させていただきます。



日本語の勉強をしている中で宮沢賢治の詩に出会い、感銘を受けてこの作品をつくったのだそうです。また、今後もこうした作品をいろいろ書きたいと嬉しそうに語ってくださいました。

◆今後の予定◆

春季休暇…2021年3月26日(金)～4月6日(火)